



△天安門広場

教師は思想、能力、出勤率、生徒を教えた実績により評価される。

授業を見学する。授業中私語は禁じられており、よそ見をする子もない。体育の授業も、号令の下整然と行われる。教師の手には鞭が持たれている。入学後間もない(九月新学期)一年生も、見事に統制のとれた授業ぶりである。教師も生徒もあらゆる面で管理されている印象を強く受けた。ただ、休み時間に見た、子ども達の明るい表情は救いであったが。

私は、子どもはおおらかにのびのびと育ってほしいと思う。

管理し押しつけるのではなく、個性を尊重し良い芽を伸ばすような教育を受けさせた」と願う。

しかしながら中国の現状も理解できないではない。国全体が一丸となって近代化を目指している時なのだろう。価値感の多様性など認めてはいられないのかも知れない。また日本を省みても、教育の荒廃が叫ばれて久しい。子ども本人にとって本当に良い教育ということについて、これからも考えてゆきたい。私の課題である。

「中国人は人民服を着ていた」

下谷二丁目 外川秀明

私は、中国とは歴史の国だと、行く前散々聞かされていたので、中国人とは歴史が人民服を着て歩いているものとはばかり思っていた。そんな気持ちで中国人に会って見るとだが、やはり人間が服を着ている。

中国人は毛沢東思想の中を生きてきたと言うので、思想が服を着て北京や西安、上海の町を闊歩しているのかと思っていたら、中国人が歩いていた。やはり人間が中国の中

を歩いている。

私は中国に行ったら、顔に歴史と書いてある人を見てみなかった。思想と浮んだ顔を見たかった。残念だ。しかし、人間の顔には所詮そんなものは出やしないのかも知れない。人間の顔とは本の表紙ではないのだ。題名など載せることは出来ない。

人民服だって、ただの服にすぎない。あれが、これが思想だぞって主張しているようには見えなかった。寒いから綿入れのやつを着る。動けば汚れている。着つづければ穴があく。洗濯しないと臭くなる。ちょっととした晴の日には良い服になる。どう見たって普通の服でしかない。今じゃ着たけりゃセーターもブラウスも、背広もある。一番手取り早く着れるのが人民服だ。ただそれだけでしかない。私は、てっきり人民服というのには思想という糸で織られているものだとばかり思っていた。そしてその思想という重みで人を被っているのだ。しかし服は服でしかない。中国人はやはり服を着ているのだ。思想を着ているのではない。

人間も、服も、靴も、髪形も、しよせん何にも主張して

はいないのだ。ただたんに生きていくのだ。生活をしているのだ。それも、中国人というものの生き方を通して。

訪中を終えて

上谷二丁目 岩村和子

中国での朝、伝統武術で体を鍛える人、職場へと向かう自転車の大群そして大勢の人々で広い道路を埋め尽くす。それはまさしく私が想像していた中国の光景でした。古代より日本文化の伝来の地であり、歴史的に深いかわりを持つ中国は今、近代化の実現に懸命に努力していました。反面、十億人という膨大な人口を抱え苦悩する姿があります。

中国には、川で洗濯をしたり、石炭でゆっくりと走る汽車の風景など日本にはなくなってしまう素朴さ、壮大さがありました。私は中国での実生活を通じまた、広大な大地に住む人々と接し、精神的な豊かさを知らされました。そして、日頃私達が忘れがちな小さな事への感動、感謝する気持ちを呼び戻してくれたような気がします。

四つの近代化実現のカギとされる教育。社会主義の自覚

を備えた有能な人材養成を目標としている重点学校等。解放後教育は発展しました。しかし十二歳以上の文盲、半文盲が現在においても二割ほども存在しているという事には驚きでしたが、中国の教育に対する力の入れ方、子供、青年達の学ぶ事に対する意欲には、圧倒されました。

親に連れられて歩いている小さな子供は、例外なく一人であり、人口政策として押し進められてきた「子供は一人」の成果の現われなのでしょう。中国は社会主義に基づく様々な抑制がありますが、人々は与えられた生活をじっと受け止め、あせらず、気張らずその生活を大切にしているのだと思いました。

中国には、悠久な歴史、文化、そして豊富な地下資源があります。まさしく可能性を秘めた国だと感じました。

最後に、中国の近代化実現と今後の日中友好の益々の発展を祈ります。また、生涯決して忘れることのない貴重な体験を通じ、改めて自分の生活を見直し、日本と中国を私なりに勉強する事が出来ましたことを心より感謝します。ありがとうございます。